

# 第28回ACEF Bangladesh Study Tour



2005年3月18日(金)～25日(金)



## 第28回

# Bangladesh Study Tour Report

## もくじ

### Bangladesh Summary

#### BDPについて

#### メンバー紹介

#### ツアー日程

#### ツアーの内容とコメント

#### Wrap Up Discussion

#### Bangladeshの文化

#### 寺子屋訪問

#### コメント集

#### 印象に残ったこと

#### みんなの感想文



## バングラデシュ概要

国名：バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh

“バングラデシュ”とは“ベンガル語を話す人々の国”

面積：14万4千km<sup>2</sup>（北海道の1.7倍）

人口：1億2,926万人 その大部分がベンガル人

人口増加率：1.48%

国土：世界最大のデルタ地帯（ガンジス川とブラマプトラ川が合流し、大河と  
なっており、ベンガル湾に注ぐ）雨季には国土の3分の1が水没する。

言語：ベンガル語

成人識字率：48.7%（98年度 政府統計局による）

宗教：イスラム教徒 88.1% ヒンズー教徒 10.5% 仏教徒 0.6%  
キリスト教徒は 0.3%

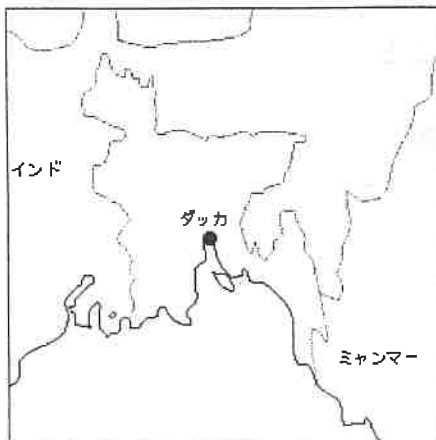
略史：1947年8月14日、東パキスタンとして独立

1971年12月16日、バングラデシュとして独立

（外務省ホームページ<各国地域情勢>等参照）



赤い丸は太陽、独立戦争のとき流された血。緑は農業の発展、大地。



## 2005.3/ 19(土) BDPstaff との Discussion

○ BDPの基本概念 バングラデシュは、1971年に独立した新しい国であり、国家に様々な問題のある国である。しかし、自国の人々を愛しているから、その人たちのために解決していく仕事がしたい。

「ここで働くことは、共に分かち合うことである。」、そして、その責任を果たすために、教育を中心とし、教育を通してみたい。

○ 教育状況 100人中、10年間の教育を受けたら十数人のみしか卒業できない。

なぜか→社会組織や経済の問題が主な理由として挙げられる。

○ 改善方針 救済(与える)ではなく、自分たち(自力)での解決が一番大切で一番必要としている。そして、自力で解決することを支援するのがBDPの活動である。

○ 活動経緯 地元の人材を活用。

農村の教育のある女性を起用し、教室を開く。

問題点→①女性中心のプログラムだと、バングラデシュ社会(男性中心)では、保守的な人はけん制をし、反対する人が出てくる。

②中学に入ってドロップアウトをしてしまう。それから何の仕事にも就けない。

解決策→小学5年生の後に、仕事ができるようにとし職業訓練教育が始まった。

○ 注意点 パーセントの数字だけを中心に見てはいけない。

それは、90%学校にいけないという数字の問題ではなく、選択すらできないでいる状態下での生活のことを考えなければいけない。

日本には、選択肢があるが、バングラデシュには学校に行く自体、困難なのである。

だから、せめて教育を受けることだけでも選択できるように、チャンスを与えられるようにしていきたい。

### 最後にアルバートさんから

ある子が、目の前にある綺麗なペンを盗んだとします。では、なぜ盗むのでしょうか。そして、それがなぜいけないのかということをお教えるにはどうしたらよいのでしょうか。皆さん、考えてみてください。

答えは幾通りもあります。育った環境、学んだ場所、信仰宗教…によって様々な考えがあり、それを話し合うことも大切なことなのです。



# 楽

シュートさん  
ボクミガ  
ニジのスタッフ  
です。じゅうは写  
に入るのか  
女せまなお茶目  
な方です。

ラハジさん  
サイフルさん  
と一緒に歌  
をよく歌ってくま  
した。おいちゃんか  
口笛を吹くて気管  
を鳴らすくらい  
笑っていました。

エツツクさん  
オモルさん  
とこも体が  
大きくてダン  
アがなかなです。  
新聞によく読  
んでいる母は  
すごいです。

アルバトさん  
BPPの総  
責任者です。よく  
私の素直な言葉と  
いかに生きました。  
私達の色んなこと  
をアジビにさせてく  
れました。

ステアインさん  
とても知的  
な方がする方が  
す。ニカレエの  
運転にたまたま  
アジビにおまじ  
といっていました。

笑顔と  
笑い声がとても  
印象的でした。  
アケルさん、ラハジ  
さんと共に歌も  
たくさん歌ってく  
れました。

アンプ"ロスさん  
BPPの  
総務と担当  
しています。アス  
カ、ゾウの時に  
私達の言葉と、  
くついでアジビ  
しました。

ソチヨイさん  
BPPの  
財務と担当  
しています。アプ  
イル、ソチヨイさん  
のお電と拜見し  
ました。



# ACEF STUDY TOUR



倣子さん

ペンギン語がとてもお上手でした。いつも素敵な笑顔でジョークを言っていました。ワロワカがとても合っていました。ハングラ大好きというのが体中からにみでてました。



船戸先生

人生経験がとにかく豊富でたくさん私達にお話しして下さいました。またお茶目な所もたくさんありました。ラジオ体操がとても上手でした。どの面においてもとても魅力的です!!



咲野ちゃん

メンバーの中で一番元気な子でした。笑い声や話し声が絶えず嬉しく、本登りが好き。ディスカッションの時はとてもしっかりした意見を話していました。



真央ちゃん

とても勉強熱心で疑問がある時すぐに先生や倣子さんに聞いていました。またメモを取っている姿が多かったです。メンバーの中で意外にモチベーションが上がるのが印象的でした。



あすちゃん

ディスカッションで正直に意見を話しているのが印象的でした。食事の時間にお気に入りのマユウリをいつも最後に残して食べてました。



奥香ちゃん

いつもおっとりとしていました。サイフルさんに「ブソング」を指をさされながら歌われてました。お土産に「うしほ」を買いたがりましたが無理でした。

車の一番揺れる所に座っていても、かみ煙草を長くかんでいても、意外にも体調を全然崩すことがない元気な子でした。スタディツアーのメンバーの中で一番モチベーションが高かった。高校生の男子に声をかけられました。

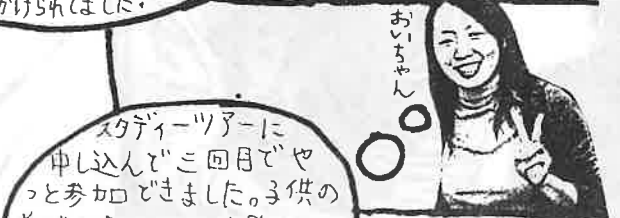


さとちゃん



かりさん

「かり」というあだ名は若い時、細かったから「だ」そうです。スタッフにも子どもにも大ウケするくらい手品が得意です。いびきがうるさくて船戸先生と一緒に寝るのを嫌がられました。また、ベッドから落ちて顔にケがしました。



おいちゃん

スタディツアーに申し込んで三回目ですが、ちょっと参加できました。子供の前で手品をやって失敗していました。学生のメンバーの中では最年長のしかりた(?) みんなのあねいんです。

## ツアー日程

### 18日

定刻どおり、ビーマンバングラデシュ航空73便でバングラへ  
同日夜、バングラに無事到着

### 19日

BDPのスタッフとオリエンテーション  
ソンチョイさんの住む村を訪問  
ダッカでショッピング☆

### 20日

ボクシガンジに出発！  
途中マイメイシンにも立ち寄る。

### 21日、22日

いよいよ学校訪問♪子どもたちや先生と出会う。

### 23日

ボクシガンジを発ち、プーパイルに戻る。  
テーゼ教会を訪問。  
マーケットでショッピング☆

### 24日

Wrap Up Discussion  
BDPスタッフと写真を撮ったり、思い出作り！  
一路空港へ・・・

### 25日

帰国

## 18日(金)

9:00 成田空港 E カウンター前集合

・岩崎さんが私の 100 ドルパックを 100 ドル紙幣に交換してくれた。ありがとう！

(あずさ)

11:20 定刻どおり出発！バンコク経由でバングラへ～！

・船戸先生はさっそくカメラの調子をチェック！

18:30 ダッカ空港着

・ のりこさんと BDP スタッフが迎えに来てくれた。

・ 空港の周りには人がいっぱい！

19:30 プーバイルへ向けて出発

20:30 プーバイルの BDP オフィスに到着

・ チャーとビスケットをご馳走になった。長旅の後のチャーはほっとする味。

お祈りと自己紹介



## 19日(土)

- 5:30 イスラム教のお祈りを促す放送 アザーンが聞こえてくる
- ・ オフィスの周りを散策。料理を作ってくださいのお姉さんたちと交流。
  - ・ 美香ちゃん、ルティー作りに挑戦! “上手い” ってほめられてました。
- 6:05 ラジオ体操
- 6:30 朝礼 のりこさん
- ・ 一瞬一瞬を大切にしよう
  - ・ 礼拝をすることは感謝すること
  - ・ 私たちの旅行費 20 万円の大切さ、まずしい人々にとっては何年分もの給料だということ
  - ・ この後、アルバートさんと歌の練習♪
- 7:15 雨! 雷! 風!
- ・ 乾季なのに、雨。でも、おかげで涼しくて過ごしやすい一日になった。
- 8:00 朝食
- ルティ、じゃがいもと人参のカレー、ゆで卵、バナナ、チャー
- ・ 初めての手で食べた! カレーが私には辛かったのだけど、アルバートさんいわく、“全~然” だそう。(みか)
- 9:30 オリエンテーション
- BDP について
- ダッカスタッフの自己紹介

このとき、こう感じこう考えた~咲野ちゃん編~

BDP のオリエンテーションでのアルバートさんのお話から  
バングラデシュの歴史や事情を背景にして、BDP の成り立ちに

ついて話してくださった時のことです。女性の地位が低いこと、子どもたちが学校に通えたとしても中学在学中にドロップアウトしてしまうことが多いこと、そのために職業訓練学校を作る必要があったこと……などの話に私たちは耳を傾けていました。すると突然、アルバートさんがこのようなことをおっしゃいました。

『約90%の子どもたちがドロップアウトすること。この数を日本に住むあなたたちはどのように感じるのか、そして私たちベンガル人と同じように考えられるのか、と不思議に思います。日本人の1日を思い返してみてください。朝起きて、あなたが顔を洗うとします。そのときに、あなたが使う洗顔フォームは数ある中からあなたが選択したものでしょう。朝食をとるとします。今日はご飯に魚の気分ではない、などと思ってシリアルなどの他の食べ物を選択するときもあるでしょう。学校への通学方法にしても自転車を使用したり、電車を使用したり、と選択肢があります。その学校でもあなたは何を専攻するか、と選択することができます。しかし、ベンガル人の子どもたちは選択することさえできないのです。』

この話を聞いて、私は心が痛くなりました。すごく苦しくて涙が出そうになりました。言葉が出ませんでした。けれど、自分がどういう状態にいるかはわかっていました。今まで私はバングラデシュの子供たちの話を、知識のひとつとして頭の中に詰め込んでいただけだったのです。しかし、アルバートさんの選択肢の話聞き、自分自身の生活、そして今日見てきたバングラデシュの生活を比較して、初めてバングラデシュの現状を理解したのでした。バングラデシュについて知るだけでなく、理解をすることができた1日でした。「このようなことが“国際理解”という大きな課題への小さな1歩になるのかな」と、ふと考えた日でもありました。

- ・BDPのスタッフとのオリエンテーションではいろいろなことを新しく知ることができました。

#### 11:30 ソンチョイさんの生まれた村へ

- ・村には緑がいっぱい。教会も見た。
- ・村の教会の周りが全部柵で覆われているのには疑問をもつ（船戸先生）

同じ村にあるクレジットユニオンの事務所を訪問

(今回、選挙でソンチョイさんはこの団体の に選ばれました！  
おめでとう！)

- ・ クレジットユニオンでは、会員から一定額のお金を集める。さらに、それを、  
会員の冠婚葬祭、事業運営のために低金利で貸し出すというシステム。

ソンチョイさんのおうちやBDP スクールを訪問

- ・ 途中タイヤが泥にはまってしまった。そのとき最後まで車を押していたのは船戸先生とアルバートさんでした…
- ・ チャーとビスケット、チャナチュール (カレー味のスナック風おかし)、ムリ (日本のボン菓子みたいなやつ) をいただく。お客さんをもてなすのがバン格拉文化 (←旧約聖書から)
- ・ 一生懸命勉強している子どもたちの姿がかわいかった (みか)
- ・ こっちの牛はスタイルがいいね (岩崎さん)

プーバイルに戻って昼食

ごはん、チキンのカレー、野菜のカレー、ダルスープ、きゅうり

15:00 ダッカでお買い物

- ・ 行きはものすごい人とりキシャとバス…よってるヒマもないくらいハラハラした。  
(みか)
- ・ 外国人向けのデパート、アーロンへ。お土産を物色！
- ・ サロワ・カミューズを購入

17:00 オフィスに戻って歌合戦。そして水浴び

- ・ 井戸から水を汲むのはたいへんだった。水のありがたさを感じた (みか)

20:00 夕食

ごはん、魚のカレー、ダルスープ、キュウリ、りんご

21:00 礼拝 船戸先生

“貧しい人は幸いである。”

いま貧しい中にいる人も、天の国では神の子なのだ。

- ・ ガンジーも同じようなことを言っている。神の子→ハリジャン

- ・ 諸行無常…物事はつねにかわっていく  
貧しくても富んでいても幸せだ。  
人生はうれしいときより悲しいときのほうが成長できる。

23:00 就寝



## 20日（日）

### 5:30 起床

- ・ 今朝もアザーンで目が覚めた。でも昨日と違って聞こえた。（あずさ）

### 6:00 ラジオ体操

### 6:40 朝礼

- ・ 塩に塩気がなくなれば…。人に例えて考えてみる。
- ・ もし、自分らしさがなくなったら…。
- ・ 私たちは世の光だ。だが、光の使い方を間違っている人もいる。
- ・ 光は置く場所によって闇ができてしまう。

### 7:30 朝食

ルティ、野菜のカレー、ゆで卵、バナナ、チャー

### 8:30 ボクシガンジへ出発！

- ・ 途中、マイメイシンでサロワ・カミューズのズボンのひもを購入。
- ・ 治安が多少悪いということで、マイメイシンではのりこさん以外は車で待機。

このとき、こう感じこう考えた～おいちゃん編～

一番印象に残ったことは車が停車している時にもものごいのひとがやってきた時のことです。確かあれは儀子さんとBDPのスタッフがサロワカの紐をマーケットに買いにいってくれた時のことでした。私たちは車に残り、運転手のニケルさんは車から降りて車の周りをうろうろしていました。すると、老人の男性が車の窓をたたき私たちに訴えかけてきました。この時私はどうしていいのかわからずまた、目をあわせることもできなかったのです。そんな風にどうしていいかわからない自分に何かもどかしさと腹立たしさとでいっぱいでした。そうこうしているとニケルさんがその老人に車に近づかないようにその老人に言いその老人は車から少し離れたところに座っていました。私は正直ほっとしました。しかし、ほっとしている自分にどこか違和感と本当にこれでよかったのかという疑問にぶつかりました。そして、ふとまたその老人に目をやると、ニケルさんがそっとお金を渡している姿がみえました。この時に私はものごいの人にお金をあげるというのはどこかであまりしてはいけないと思っ

ていてそれがなぜいけないことなのかと考えたことがない自分に気づきました。旅行に今までいった時にもものごいの人に何度も出会ったけれどみてみないふりをしてきました。しかし、なぜ自分にここまで「あげるべきではない」という心理があったのか、なぜあげるべきではないのかを考えたことは本当になかったのです。ニケルさんがその老人に手を差し伸べている姿をみて私自身が考え直す機会になりました。この問いは私自身で答えははっきりとは出ていませんが当たり前のように考えもしなかった概念を打ち砕いてくれるいい経験になったと思います。

・このマイメシシでの体験はメンバーみんなの心に強く焼き付けられました。バンクラについて深く考えさせられる良い機会になりました。

#### 14:30 ボクシガンジ到着。そして昼食

- ・ボクシガンジのオフィスはすごくきれいで、ベッドも準備してくれていた。
- ・船戸先生お気に入りのコックさんがまたアレンジされていた。やったね☆
- ・昼食は、ぜいたくな子羊のカレー！モジャ！！スタッフ、私たち、みんなで同じテーブルを囲んで楽しいランチタイムでした。

#### 15:45 チャーでひとやすみ

- ・まみちゃんと私は寝ていました…（あずさ）
- ・ボクシガンジにいる間の予定などをチェック

村の見学。その後展望台へ

#### 20:00 夕食

- ごはん、魚のカレー、ダルスープ、キュウリ、りんご、バナナ
- ・夕食の間ずっと雨だった。そのうちひょうが降りだして、ひょうの降る音の中で食事した。ひょうなんて日本にいてもあんまり経験できないのにー！！貴重な体験。

#### 20:50 礼拝 おいちゃん

- ・聖書箇所最初の部分では、人を殺した者は裁かれるとあり、次の部分では、腹をたてた者が裁かれるとある。どの人も殺人を犯すまではいかなくても腹を立てたことはある。
- ・おいちゃんは、阪神大震災のときのつらい経験を通して、神に怒りをぶつけることが、人間のおごりだと気づいた。

21:05 シェアリング

- ・ 物乞いについて、かなり話し合った。

このとき、こう感じこう考えた～さとちゃん編その2～

ダッカ空港に着き、プーバイルまでの移動中に見た道路わきの積み上げられたゴミ。そこからは、ガスが発生し、悪臭も漂っていた。

日本では、ごみ置き場に捨てたら回収車が持っていくというシステムがあるが、ここでは分別もない。

燃えるものもそのまま捨て、不燃ごみもそのままなのである。

洪水が起きたら、これらのごみはどこに行くのだろう。逆に、“流されるから”良いというのか。

原因を考えてみた。徐々におきた近代化ではなく、外部から急激にもたらされた文化によるものではないだろうか。外国への出稼ぎ、そして、貧富の差による生活水準の違い、社会保障の不発達・・・さまざまな要因がそこから考えられる。

都心より、なんだかボクシガンジでの農村の生活のほうが居心地良かったように思えた。(これは単なるエゴかもしれないけど・・・)

もちろん、プーバイルに比べたら、人も物資も多くはない。だが、その分、物乞いをする人も、汚染も多くはないのである。

ある日、積み上げられたごみを見て、のりこさんが言った、「前はなかったのに」という言葉は、その状況をいっそう残念に感じさせた。

## 21日(月)

6:00 起床。

- ・ みんな疲れがでたのか少し遅めだった。

6:30 ラジオ体操

6:45 礼拝 さとちゃん

- ・ さとちゃんが、自分の体験を交えて、「求めるものには与えなさい」という聖句について話してくれた。

8:00 朝食

ルティー、ゆで卵、野菜のカレー、ストレートのチャー

9:00 いよいよ学校訪問に出発♪

- ・ 一校目の学校の校舎は建設中だったため、青空の下で授業していた。
- ・ 幼稚園から小学校5年生までのクラスがあり、メンバーは2人ずつに分かれてそれぞれのクラスを見学させてもらった。
- ・ エーデルワイス、大きな栗の木の下で子どもたちの前で発表♪
- ・ 子どもたちがベンガルダンスを披露してくれた^v^
- ・ ベンガル人は歌と踊りが大好きなんだなあ～(まみ)
- ・ 二校目でもエーデルワイス、大きな栗の木の下で発表♪
- ・ 授業を受ける子どもたちはみんな大きな目をきらきら輝かせて、一生懸命勉強していた。先生たちもすごく熱心だった。
- ・ なんだかよくわからないけど、日本では感じる事のなかった「幸せ」をここでは感じる事ができた・・・(まみ)
- ・ 「勉強する」ってこういうことなんだなあ・・・(あずさ)

このとき、こう感じこう考えた～さとちゃん編～

「山を一つ、谷を一つ越え…」このような登校話は、自然と出る。  
学校にいる時間のほうが短い。そして徒歩である。  
日本では電車や車、バスといったように交通手段があり、時間を短縮できる。  
→これらのことは、どんなに学ぶことが大切で、必要なのかということ  
を私たちは教えられた気がする。

14:00 フリータイム

明日の出し物の練習をみんなでやった。リコーダーで「かえるの歌」を  
輪唱♪ 手品の練習もした。

16:00 少数民族であるガロ族の村を訪問。

ガロ族は日本人の私たちが懐かしさを感じるような、モンゴロイド系の  
顔立ちをしたひとたち。彼らの村では女性が力を持っていて、土地の相  
続権も女性が持っているのが一般的だそう。バングラは男性社会だと思  
っていたので意外？！

ガロ族の方のおうちの中も拝見させてもらった。とてもきれいに床が掃  
きこまれていたり、清潔な印象を受けた。

ガロ族の子どもたちも寺子屋で出会った子どもたちと同じく、目のきら  
きらした、かわいい子どもたちばかりでした。



ガロ族の村で。この村には  
ペットのお猿さんもいたり  
して、楽しかった。この写真  
は、ごはんを作っているところ



## 22日 (火)

6:00 起床

昨日少し体調を崩していたみかちゃんも元気になって安心！

6:20 ラジオ体操

6:40 礼拝 まみちゃん

- ・ まみちゃんが、ボランティアという言葉について話してくれた。
- ・ 人は誰でも、自分のしたことを人に自慢したくなる心理を持っている。興味深いお話でした。

8:00 朝食

ルティー、じゃがいものカレー、あひるの (!) ゆで卵、チャー

- ・ あひるの卵を初体験!!!おいしかった。コックさんに感謝☆

9:00 さっそく今日も学校訪問に出発～！

- ・ 一校目はマシュタルパラスクール。この学校には201人の子どもたちと4人の先生がいるそう。BDPスクールは午前と午後の2部制ということで、私たちが見学したのは、幼稚園2クラス、5年生1クラスだった。
- ・ 「大きなかぶ」、「かえるの歌」を発表！
- ・ 子どもたちが、独立戦争のときの様子を劇で発表してくれた。シャツに血のりまでつけて本格的だった！
- ・ 昨日練習した手品、反応いまいちだったなあー (おいちゃん)
- ・ でも、がりさんの手品はすごくウケてた！すごかった！ (さとちゃん)
- ・ 二校目はドゥムトゥラスクール。ここは私たちの泊まったBDPオフィスから歩いていける距離にある学校。
- ・ 「大きなかぶ」発表！子どもたちも歌とダンスをプレゼントしてくれた。ありがとう。
- ・ 船戸先生は2年生のクラスで、折り紙を切って、わかかの飾りを

作成！子どもたち、うれしそうでした。

- ・ ランチの前に、みかちゃん、おいちゃん、あずちゃんはオフィスの近所にすむ子どもたちとシャボン玉で遊んじゃいました。シャボン玉見るの、初めてだったのかな？うれしそうにはしゃぎまわる子どもたちが本当にかわいらしかった♪



13:00 昼食

ごはん、魚のカレー、甘いおいものカレー、きゅうり、パパイヤ。  
もじゃ！もじゃ！もじゃ！

15:00 散骨式

ICU で学ばれていた金沢正和さんは、筋ジストロフィーという難病と闘いながら、世界平和のために勉学に励まれたそうです。亡くなった後、世界各地に散骨してほしいという遺言に基づき、今回、BDP オフィスにあるジャックフルーツの木の下に散骨させていただきました。天で彼が安らかに休まれていることをお祈りしました。

16:00 モニュメントを見にドライブ☆

- ・ 独立戦争のモニュメントを見に出かけた。モニュメントは、平和の象徴である鳩と、太陽をかたどったものだった。戦争で命をおとした方たちの冥福も同時に祈るものだろう。
- ・ さんの義理のお父さんのお宅へ。体調を崩してしまったおいちゃんを休ませてくれたり、わたしたちをビスケットとチャーでもてなしてくれたり、ここでも皆さん親切でした。

- ・ 帰りの車の中で、船戸先生の日本語レッスン開講☆  
「バナナを食べたいです」うまく言えたかな～～???  
スタッフがわざわざバナナを買ってきてくれました。ありがとう。
- ・ BDP スタッフのように、バングラの人たちのように、相手のことを思った親切心がもちたいなあ（あずさ）

#### 20:00 夕食

ごはん、牛肉のカレー、じゃがいものカレー、ダルスープ、バナナ、パパイヤ。

ボクシガンジでの最後の夕食は忘れられないおいしさでした。コックさん、手伝ってくれたおばさん、そしてサミュールさん、ありがとう。

#### 21:00 礼拝 咲野ちゃん

- ・ 「主の祈り」は自分にとって特別なもの。マタイ 6: 1～15 とこの「主の祈り」をからめて話してくれた。



ボクシガンジの子どもたち。  
みんなのこと忘れないよ！

## 23日 (水)

6:00 起床

6:15 ラジオ体操

6:30 礼拝 みかちゃん

- ・ みかちゃんのキリスト教にかかわるきっかけ、そしてお祈りに対する思いについて話してくれた。

7:20 朝食

ルティー、じゃがいものカレー、ゆで卵、バナナ。  
ボクシガンジで最後の朝食。コックさんたちにお礼。

ベッドの片付け

- ・ このときから徐々にもう少しいたいと強く思うようになった (さとちゃん)

8:00 写真撮影 犬も一緒にみんなで写真を撮って出発！

- ・ オフィスを離れていくうちに、子どもたちや先生を思い出した。絶対忘れないと思う (さとちゃん)

11:00 テーゼ教会到着。

- ・ 紅茶をいただいたり、子どもたちと遊んだり♪この子どもたちは本当に元気！勢いがありすぎて、メンバーもたじたじでした。

12:00 礼拝

- ・ 今まで体験したことのないような、音楽を交えた静かな礼拝だった。
- ・ リコーダー、ピアノカを寄付。使ってくれているといいなあ♪

12:30 テーゼ教会出発

13:10 車内でおやつタイム。ライチクッキーに初挑戦！

14:55 プーバイル着。 スタッフが出迎えてくれた。

- ・ プーバイルに電気があるのを忘れていた。ボクシガンジでのハリケーン（ランプのこと。）生活もよかったなあ（さとちゃん）

15:20 遅めの昼食

ごはん、魚のカレー、じゃがいものカレー、きゅうり。

15:40 ヘモントさんたちとお別れ。

- ・ ボクシガンジで私たちをサポートしてくれたヘモントさんたち。お別れのときは寂しかった。

15:50 フリータイム

- ・ サイフルさんたちとおしゃべり。ベンガル語でメンバーに名前をつけてくれた♪ 例えばさとちゃんはジョリナ（花の名前らしい）。

18:00 マーケットでお買い物☆

- ・ サイフルさんがチュリをプレゼントしてくれた。いい思い出の品ができてみんな大喜び。
- ・ ほかに、ベンガルティーやクッキーを購入。
- ・ がりさんとあずちゃんはリキシヤも体験♪

20:00 夕食

ここでも最後の夕食になってしまった・・・寂しさがつのるばかり。

20:45 礼拝 のりこさん

- ・ 聖書をよく読むことによって「よく見る」というのは「よく見つめる」ということだと感じた。そこに神様の力があり、神様に目をむけるということにつながるのである。

## 24日 (木)

6:00 起床

6:30 ラジオ体操

7:30 朝食

ルティ、じゃがいものカレー、ゆで卵、バナナ、チャー。

- ・ 今日することは何もかも最後で寂しい。
- ・ バングラにも「おしん」があるという話にはびっくり！（おいちゃん）

9:00 ディスカッション

最後のディスカッションではみんな本当にいろんなことを考え、シェアすることができた。これぞスタディーツアーの醍醐味！そんなディスカッションでした。

13:15 昼食

ごはん、チキンカレー、じゃがいものカレー、ダルスープ、ぶどう。

15:15 アルバートさんのおはなし

ヨハネ5：1～9

今日の箇所は、ある一人の人がイエスに出会ったというところ：この人は38年間病に苦しんでいたが、イエスに出会っていやされたという箇所である。

私自身も人生においてさまざまなことに出会い、その中には重要なこともあった。いろんな決断をしたが、その多くはいい決断ではなかったのではないかと思う。45年間生きてきて、神様が与えてくれた特別な機会があった。それは「出会い」であった。私たちはイエスのもとでさまざまなことに出会う。その中で、きつとなにかができるはずである。私自身も今までにいろいろな人に出会ったけれど、私は私を必要とする人に何もできなかったと思う。私を必要とする人になにかするのはそんなに難しいことではない。だから、私たちが何もしないで時を無駄にするということはしたくない。必要とする人に何かするというのはとても重要である。BDPはこれからもそれを実践していきたい。みな

さんもこの情熱に加わってほしい。

船戸先生のおはなし

ルカ19:1~10

バングラに着いたときからここまでのことを考えると、いろいろな人の姿が蘇ってくる。子どもたちの輝いていた目、ガロの人々の生活など・・・このような経験はBDPの支えなくしてはありえなかった。先生、子どもたち、BDPのスタッフ、そして全ての人に感謝している。

この聖書箇所は、ザアカイの話。彼は裕福ではあったが、嫌われていた。孤独であり、富とひきかえに隣人を失っていた。

日本やアメリカなどの富の国の考え方は経済や合理性から形成されている。先生の友人の著書『NPOという生き方』では「あまりに経済的な」ということを「経済にとりつかれた」と表現している。人間の生活は、単なる経済活動ではなく、文化、政治、人とのかかわりから成っている。

ザアカイもまた、このような生活をしていた。しかし、自分の生活が狂っていると彼自ら感じていた。イエスに出会い、彼はかわった。人生においては、「出会い」というものが重要なのだ。「よき師、よき友」は宝である。

本当に人間を変えるのは愛だけ。キリスト教において、「救い」は人々の分かち合いがあって始めてもたらされる。自分が幸せになるだけでなく、他人も幸せにすること、それが重要。

- ・ 今日是一日ディスカッションをしてすごした。自分の視野がまた広がったと感じる。  
(おいちゃん)

空港に行く前に・・・

BDPスタッフと思い出作り♪

木に登ったり、リキシャをこいだり、バイクに乗ったり。

オフィスの近所の人たちとも最後の交流を楽しみました。

みんな最後まで本当にフレンドリー。

バングラに来て、いろんな体験をして、ほんとによかったなと感じたメンバーでした。

19:00 空港へ出発

20:55 ダッカ出発

## Wrap Up Discussion

このディスカッションは最終日の朝にBDPのスタッフとスタディーツアーのメンバー全員で行われたものです。それぞれが一週間で感じたことや考えたことなどを述べ、自分自身のまとめにもなりました。そしてアルバートさんのお話もうかがえてとても有意義な時間となりました。ここではそこでみんなの話した内容をまとめたいと思います。

みかちゃん

はじめに緑の大地、蛍の光など大自然を見ることができてよかった。そしてこの旅で二つのことを学んだ。ひとつは感謝する心。日本では当たり前のように資源を使っていた。感謝していなかったことに気づかされた。二つ目は貧しさについて。実際体験することにより今までテレビなどでは見えなかったものが見えた。この二つについて自分なりに考えることができた。そして、バングラディッシュの人の考え方をBDPのスタッフと話すことで学べた。これらのことをこれから毎日の礼拝で感謝したい。また将来の夢も増えた。自分のためだけでなく誰かのためになるような仕事をしたい。またそれが特にバングラディッシュのためになるようなことをしたい。

さきのちゃん

1週間でこの国のイメージが変わった。来る前は貧しさばかりが目立っていた。しかしこの国は自然や心などが豊かだった。また学ぶことの大切さを子供たちから学んだ。日本に戻ったら自分の学校のみみんなに学ぶことの大切さを伝えたい。さらに愛国心がバングラディッシュの人は強いと感じ、そしてそれはとても素晴らしいことであると思った。

まみちゃん

バングラディッシュでの全ての経験がとても素晴らしいことだった。BDPのスタッフと話せたことなど。バングラディッシュの子供やスタッフにたくさんのもので与えてもらった。絶対にバングラディッシュのことを忘れずそしてまたバングラディッシュにきたい。日本に戻ったらあらゆることに感謝して勉強したい。そして、バングラディッシュのことを友達に伝えたい。

あづちゃん

手でカレーを食べたり、水を井戸からだしたり、バングラディッシュの景色のきれいさ、子供の笑顔、全てのことがとても興味深かった。バングラディッシュの人は日本の人よりもとてもアットホームな感じがした。なぜ、日本人には感じられないのだろうか。そのことはこれからも疑問である。これからはバングラディッシュの人がもっとハッピーになれるよ

うにできることがあればしたい。日本に帰っても心のバングラディッシュが自分を支えてくれるだろうし自分を元気づけてくれるだろう。

さとちゃん

車からの風景、独立戦争のモニュメント、寺子屋訪問、生活において全て学びの場だった。BDPのスタッフの活動などを通して、バングラディッシュのことをとても好きになった。日本に帰ったら、就職活動や編入にむけての勉強など不安なことはたくさんあるがみんなのことを思い出しましたバングラディッシュのことを思い頑張りたい。

おいちゃん

子供たちの学ぶ姿勢は日本の子供にはないと思った。また、日本では宗教や倫理など魂の教育が重視されていない。心を育てることよりも、知識の量を増やすことばかり考えている。私は将来教師を目指し、ぜひ心を育てる先生になりたい。また、バングラディッシュの人たちはとてもバングラディッシュが大好きで、それはとてもすばらしいことで重要などであると思った。

がりさん

自分はACEFの評議員であったが何もしていなかった。そして今回の旅で、現場を知ること、バングラディッシュを目で見、体を感じる事がよかった。また、子どもは人類の宝であると感じた。目の輝き、興味関心の豊富な心、元気な声、これらをこの社会を担っていけるようにこれから力になっていきたいと思う。

アルパートさん

スタディーツアーと聞いて毎回みんなは日本のような環境にいてバングラディッシュに来て何を学ぶのかなと思っていたが今回一つの発見をした。みんなはバングラディッシュの知識のみならず色々な人と接して色々な感情を得た。このことにより自分たちが何をしなければいけないかということをも自分達の問題として考えてくれたことが非常にうれしい。これがスタディーツアーの意義であると感じた。また日本に帰ってからみなさん自身が大使となってバングラディッシュのことを説明してほしい。そして平和と愛をつける大使となってほしい。またこれからもBDPの活動をACEFを通して支援してほしい。

## バングラデシュの文化

○挨拶 信仰宗教によって異なる。



ヒンズー教：手を合わせる



イスラム教：手を顔に近づける

○衣 女性民族衣装：サリーとサロワカミューズ

男性民族衣装：ルンギ

チュリ(腕輪)：素材は金属、プラスチック、ガラスと様々。

○食 飲み物：チャー(甘いミルクティー) やココナッツが代表的。

主食：カレーにご飯か、ルティーをつけて食べる。(右手で食べる)

他には果物(バナナ、マンゴーなど)、クッキーもよく売られていて、中にはライチクッキーなどもある。



ココナッツ



ジャガイモカレー

○住 家は、木や土、レンガを用いる場合が多い。竹の柱とジュートの芯に泥を塗りつけた壁に、わらぶき、トタン屋根、床は土間などになっている。

レンガは、石が少ないため造られている。寝具に蚊帳は欠かせない。

○交通手段 リキシャ、バス、自動車、列車などがある。

○舞踊 ベンガルダンスがあり、学校訪問では踊ってくれた！



リキシャ



蚊帳



ベンガルダンス

# ☆寺子屋訪問☆

## ～バン格拉デシュの子供たちとの出会い～

ボクシガンジでの2日間BDPの学校を訪問し、子供たちと交流しました！そのときにやった遊びや出し物をいくつか紹介します。

### \* 大きなくりの木の树下 (ボロボロガチェ)

最初日本語で、次にベンガル語で歌いました。子供たちも真似して歌ってくれました！BDPスタッフのヘモントさんが気に入っていて帰り道でもずっと歌っていました(笑)。

### \* かえるのうた

日本のかえるは「ケロケロ」。バングラのかえるは！？「グアグア」と鳴くそうです。輪唱したり、リコーダーで演奏したりなど、いろいろな方法でやりました。

### \* エーデルワイス

ハモるのでみんな珍しそうに聴いていました。バン格拉デシュの曲はハーモニーをつくらないけれど、きれいな曲ばかりです。

### \* おおきなかぶ (モストボロ シャルゴン)

ベンガル語で劇をやりました。役のところを自分たちの名前に変えて「アマル ナム ○○」と自己紹介しながらやりました。子供たちも名前を覚えてくれたかな？

### \* 手品

おいちゃん、さとちゃん、あずさちゃんが「脱出マジック」を、岩崎さん(ガリさん)は様々な手品に挑戦していました。岩崎さんのボールが消えるマジックには子供たちも興味津々でした！

### \* アジア地図

高学年の子供たちにはアジアの地図を見せ、「ここが日本でここがバン格拉デシュだよ」などといろいろ話しかけました。日本からどうやって来たの？という質問には「飛行機！！」

### \* 紙ふうせん

地球儀の絵がかいてあり、子供たちに説明をしてから遊びました。

### \* シャボン玉

学校ではできなかったので、村の子供たちと一緒にやりました。最初は珍しそうに見ていた子供たちも、慣れてくると楽しそうに吹いてくれました！

# ☆☆コメント集☆☆

寺子屋訪問やシェアリング、なにげない会話の中で発せられた印象に残ったひとことを紹介します。

\*ガロ族の村人に「あなたはベンガル人ですか?」と尋ねたところ、「私はクリスチャンです」と返ってきたこと。自分の村の宗教を大事にしているということが伝わってきた。  
(儀子さん)

\*寺子屋で子供たちと交流していたとき。「言葉じゃなくても気持ちは通じる」ということを実感した。  
(あずさ)

\*BDPの教育が宗教や倫理に基づいていることに感銘を受けた。日本では宗教や倫理が弱者に還元されていない。私は心の教育ができる先生になりたい。  
(のぞみ)

\*「良き師、良き友」。人生における出会いというものは最も重要なもの。(船戸先生)

\*Society and culture are so much the same. Mentality is also the same. The only differences between Bangladesh and Japan are figure and economy. (サイフルさん)

※この言葉を聞いたとき日本人は経済的には豊かだけど、バングラデシュには日本人が忘れかけている「心の豊かさ」があるということを改めて実感しました。(まみ)

\*私達は姿も文化も政治も経済も宗教も肌の色も違う。それでも私達は同じ「人間」だ。同じことを考え、同じ「世界の平和」という目標に向かって歩んでいるんだよ。  
(ファルークさん)

\*バングラデシュはいろいろな問題を抱えている。でも私たちベンガル人は皆バングラデシュが大好きだ。  
(ステファンさん)

\*God give us special opportunities.

All we have to do is to grab the chances.

(アルバートさん)

# 印象に残ったこと

\*ガロ族の村訪問。顔つきが日本人に似ていて親しみが湧きました。船戸先生、ガロ族の女の子に一目惚れ！？ずいぶん気に入っていた様子でした(笑)。

\*ボクシガンジで突然現れた警察官。前代未聞であり、BDP スタッフもびっくりしていました。寺子屋訪問やどこか移動するたびについてきてドキドキでした。

\*船戸先生の日本語講座。「おいしいバナナが食べたい!!」という文をBDP スタッフに教えていました(笑)。この後、スタッフが本当にバナナを買ってきてくれました。・・・ドンノバット!!

\*最終日の「バングラを満喫しよう大会!？」

① リキシャをこぐ

普通の自転車とは少し違い難しいという意見もあったけど、数名がとても上手にこいでいました(おいちゃんとか)。

② 木に登ってジャックフルーツを取る。

咲野ちゃんが挑戦。見事ジャックフルーツを取り、賞金 2000 タカ(!?)をもらいました。

③ サイフルさんのバイクに乗る

岩崎さん(ガリさん)が挑戦。バイクの免許持っていないのに……。わき道にそれるたびに村人や子供たちが逃げていました。

④ バングラ式自転車

なんかガタガタしていて乗りにくかった。しかも足が地面に届かない・・・(涙)。

⑤ 紙タバコ

これはとにかく強烈でした。口の中がピリピリして閉会礼拝のときもずっと気になっていました。眠くなったり、帰りの飛行機で具合が悪くなる人も・・・。

\* BDP スタッフとのカラオケ大会。バングラの歌と日本の歌を交互に披露し合いました。サイフルさんがノリノリでバングラのラブソングをうたってくれました(笑)。

\* BDP スタッフの優しさと心配り!!本当に感謝します。ドンノバット!!!

# 3.2.3. 関心事項

この関心事項は、本報告書の作成に際して、関係者から寄せられた意見や、調査結果に基づいて抽出された重要な事項を示している。

本報告書の作成に際して、関係者から寄せられた意見や、調査結果に基づいて抽出された重要な事項を示している。

本報告書の作成に際して、関係者から寄せられた意見や、調査結果に基づいて抽出された重要な事項を示している。

本報告書の作成に際して、関係者から寄せられた意見や、調査結果に基づいて抽出された重要な事項を示している。

本報告書の作成に際して、関係者から寄せられた意見や、調査結果に基づいて抽出された重要な事項を示している。

## ～みんなの感想～

本報告書の作成に際して、関係者から寄せられた意見や、調査結果に基づいて抽出された重要な事項を示している。

本報告書の作成に際して、関係者から寄せられた意見や、調査結果に基づいて抽出された重要な事項を示している。

本報告書の作成に際して、関係者から寄せられた意見や、調査結果に基づいて抽出された重要な事項を示している。

本報告書の作成に際して、関係者から寄せられた意見や、調査結果に基づいて抽出された重要な事項を示している。

本報告書の作成に際して、関係者から寄せられた意見や、調査結果に基づいて抽出された重要な事項を示している。

本報告書の作成に際して、関係者から寄せられた意見や、調査結果に基づいて抽出された重要な事項を示している。

## 私の使命って何だろう？

川上 咲野

バングラデシュから帰国して私の住む街へ着いたとき、私が最初に思ったことは、この国はなんて豊かではないのか、ということだった。平日の午後、商店街であるにもかかわらず閑静であるわが街に、私は僅かな違和感、むしろ拒否反応といっても過言ではないものを抱いたのだ。

バングラデシュのマーケットはもっと人々の活気を帯びていた。マーケットだけではない。学校で授業中、元気に発言する子どもたちにも活気があった。人々の活気、優しさ、笑顔、緑の自然、そして愛国心。そういった“こころ”が成長していくのに必要で日本には僅少なものが、バングラデシュの至るところで溢れていたのだ。この国が私にはとても心地よかった。きっとそれは「生」に溢れていたからだと思う。バングラデシュの人々は一日一日を真剣に生きていた。それが私には言葉にあらわせないほど気持ちがいいものだった。かつて私が住みやすいと考えていた環境はいったいどちらだったのだろうか？人間にとって本当に必要な豊かさは何なのだろう？そんな様々な疑問が帰国した今も浮かんでくる。スタディーツアーは終わっても、本当のスタディーは私が生き続ける限り、終わらないのだ。

部活の合間を縫って働いた約1年分の給料。それはバングラデシュのスタディーツアーへと消えた。しかし、聖書に『わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます』とあるように、『見えないもの—バングラデシュで得た全てのもの—は永遠に存続する』のであり、そこにはお金に代えられない価値があるのだ。このような感謝すべき経験を抱いた今、私は何をすべきだろう。いったい私には何ができるのだろうか。私の使命とは何なのだろう。そう考えたときに一つの答えが見つかった。

日本は教育面の環境においてはバングラデシュより豊かだといえる。しかし、日本の現状ではその豊かさを無駄にしている人が多くいる。その中で、私がすべきことはバングラデシュについて伝えていくことではないだろうか。帰国してからの私は友達や周りの人々のバングラデシュに対する発言に怒りを覚えたことが少なくない。バングラデシュについての情報が少なく、関心も低いから勘違いをするのだろう。それならば、私が情報を提供すればいい、興味を持たせればいい。伝えるといっても、そんな大きなことを最初からするのは無理である。まずは周りの人々の小さな誤解を解くことから始めていきたい。そしてバングラデシュについて正しく知った上で、私たち自身の生活を見直していけたらいいと思う。

最終日にアルバートさんは私たちを“愛と平和の大使”だと言っていた。その言葉に適うように、私はこれから少しずつ自分の使命を果たしていきたいと思う。

最後に、船戸先生、儀子さん、岩崎さん、実香ちゃん、真実さん、あずさん、理子さん、望さん、BDPスタッフの皆さん、共愛学園の先生方、私の家族、そしてスタディーツアーに関わっている全ての方々、今日の私は皆さんの支えなしでは至ることができなかつたと思います。このような素晴らしい機会を与えてくださり、感謝しています。ありがとうございました。

一週間のスタディーツアーをとおして、私にとってよい思い出となったし、多くのことを考え学ぶすばらしい機会であったと思う。日本での日々の生活は毎日勉強におわれていた。でもバングラデシュの緑の大地、蛍の美しい光などの田舎に住む私でも見たことのない自然や、多くの人々との出会いは私に“一度立ち止まって周りを見渡してごらん”と教えてくれた気がする。最初は紙のないトイレや鉄の味がする水に抵抗があったけれどいつのまにか水もゴクゴク飲めるようになり、バングラデシュの生活になれていった。バングラデシュの人々と同じように暮らしてみても“感謝する心”を忘れていた気がする。日本では当たり前のように資源を使い、ものを買って、食べ物を無駄にしている。私たちには十分に食べる物があり、住む家もあるのだから一日一日を与えられることを感謝する心をいつでも持っていたいと思う。私は貧しさや貧困ということは学校の授業やニュースの中でしか感じることはなかった。車での移動の中でマーケットで車を止めていたとき、物乞いのおじいさんが私に近づいてきたことがあった。私はその人の必死に願う目が今でも忘れられない。私はあの時どうするべきだったのか、言葉が通じたならなんと言うべきだったのだろうかとも今でも思う。その日のシェアリングで物乞いにお金を与えるかということについて話し合った。私はまだその答えは見つかっていない。自分には何ができるのだろうか。何が必要で何をすべきなのかと旅行中はずっと思っていた。私はそれを課題として考えていきたいと思う。わたしには大きな事ができなくても、他者のために何ができるのか考え実行していくものになりたい。できればもう一度バングラデシュに帰って自分のやりたい仕事をただ自分だけのためにやるのではなく、だれかのために一生懸命やりたいと思う。今日本へ帰って、たくさんの人の一言一言が思い出される。バングラデシュで過ごした一瞬一瞬を大切に心にとめていきたいと思う。

最後に今回お世話になったBDPの方々、共に一週間過ごした仲間、送り出してくれた家族、その他関係して下さった多くの方々に感謝したい。

## 私が出会ったバングラデシュ

奥野あすさ

今回のスタディーツアーに参加する直前まで、初めてのバングラデシュを楽しもう、いろいろなことを吸収しようと思う一方で、バングラデシュを選んで良かったのか、そもそもなぜバングラデシュにしたんだろうと考えたりと、少し葛藤がありました。しかし、日本に戻ってきた今、参加して本当によかったと思います。本当に多くのことを得ることができたと思うからです。

一つ目は、何といっても、感謝の気持ちです。日本で生活しているとあまり感じることもなかった水の大切さや三度の食事のありがたさはもちろん、バングラデシュの美しい大地や夕日、接した人たちの笑顔は、私に自然とありがとうと言いたくさせてくれました。それは、日本で私を支えてくれる家族、友人、周りの人全てに対してもありがとうと言いたくなるような、素直で深い感謝の気持ちでした。また、スタディーツアー中ずっと私たちをサポートしてくれたBDPスタッフには、今も本当に感謝しています。私も、BDPスタッフのように、相手の立場に立って人に接することができるようになりたいと思いました。

二つ目は、ひたむきさです。訪問した学校の先生や子どもたちは、みんな本当に一生懸命に教え、学んでいました。日本のような明るい教室やきれいにそろった備品がなくても、元気な声やまっすぐな目が溢れていました。彼らだけでなく、街でレンガを砕く人、リクシャをこぐ人、商売をする人・・・みんな私の予想以上に強いエネルギーを感じさせてくれました。それは、バングラデシュの人たちが、ひたむきに生きているからだと思いました。それまでの私が知らなかった強いひたむきさでした。それから、バングラデシュとバングラデシュの人々を愛し、だからこそ子どもたちに教育の機会を与えたいという信念を持って働くBDPスタッフの姿に、私は憧れを感じました。

そして、三つ目は、きっかけです。帰国の日、ダッカの空港で、空港の柵の外にたくさんの人たちが立ってこちらを見ているのがわかりました。初日にも見た光景でしたが、違うもののように見えました。彼らを見ていると、それまでに会った人たちのさまざまな目を思い出しました。ダッカに行く途中、車の窓を叩いた物乞いの目、学校訪問で出会った女の子が別れ際に見せたまっすぐ私を見つめる目、街の物売りのにごった目・・・どの目もとても強い力を持っていて、私の心の中まで見られているような気持ちになりました。それは、バングラデシュにはまだまだ私の見ていない部分があるということを感じさせてくれるようでした。空港の近代的なラウンジで飛行機を待ちながら、この国には空港に入れる人と入れない人がいるという現実、改めて打ちのめされていました。学校訪問で出会った子どもたちがいつか大人になり、こんな風に分けられてしまったらと思うと、胸が苦しかったです。そのときになって初めて、バングラデシュの子どもたちに教育の機会を与えたいというBDPの願いと、「今あなたにできることを考えてみてほしい」というアルバートさんの強く切実な思いがわかったような気がしました。いろいろなことを私に教えてくれたバングラデシュに、これからも関わっていこうと思います。そしてまた必ずバングラデシュに行きたいです。

## 「スタディーツアーで感じたこと」

徳差 真実

私はこのバングラデシュスタディーツアーでこれまでにないくらい貴重な経験をさせていただき、多くのことを考えさせられた。また、自分が出会った一つひとつのものについて考え、感動したり、ショックを受けたりなど、感じたことも様々であった。ボクシガンジでの寺子屋訪問、BDP スタッフとの出会い、ガロ族の村訪問、独立戦争のモニュメントなどここには書ききれないくらいたくさんある。しかし、私の中で特に印象に残っているのは、ダッカのマーケットで見た光景である。

ダッカのマーケット。ここに来たとき、私はなんともいえない違和感を覚えた。人とリキシャで溢れかえっているこの場所で私は貧富の差というものを目の当たりにした。裕福そうな男の人を乗せたりキシャをこぐ少年。物を売りに来る子どもたち。彼らはどことなく寂しそうな目をしていて、ボクシガンジで見た子どもたちのキラキラした目、笑顔はここにはなかった。そしてボクシガンジで感じた幸せな気持ちもどこかへ行ってしまった。どうしてここはこんなに違うのだろうか。貧富の差があまりにもはっきりしすぎて見ていて辛い。車が止まると一人の男の人が窓から手を伸ばしてきた。物乞いの人？手を合わせて必死に何かを訴えてくる。わたしは思わず目をそむけてしまった。すると突然車の後ろを「バーン」と叩かれた。ショックだった。自分が目を背けたことに対して「ちゃんと現実を見ろよ。」とされているような感じがしたからである。現実を受け入れるどころか直視することすらできない自分に腹が立った。涙が出てきた。どうして世界には私たちのように豊か過ぎる人もいれば、毎日を生きていくことだけに必死にならなければいけない人がこんなに大勢いるのだろうか。ダッカのマーケットにいる間中、この問いは私の頭から離れなかった。

バングラデシュで感じたことは辛いことばかりではない。ボクシガンジの寺子屋訪問では子どもたちが目を輝かせながら一生懸命勉強している姿を見て、とても幸せな気持ちになれた。ボロボロになるまで使い古された教科書。たった一本の鉛筆。物質的には決して豊かであると言えないが、与えられたものの中で精一杯勉強する姿に感動した。私たちが忘れかけていたものがここにはあった。日本は物質的に豊かであり発展した国であるが、発展の過程で失われたものも少なくない。発展とはどういうことなのかを改めて考えさせられた。

このスタディーツアーではBDPのスタッフ、子どもたち、そしてバングラデシュの人々から多くのものを与えられた。私はこの与えられたものに対して、直接何かをしてあげることはできない。私が今できることは与えられたものに感謝すること、一生懸命勉強すること、そして精一杯生きること。今まで当たり前のようにきれいな服を着て学校に行き、食事をし、という生活をしてきたことがいかに恵まれているかということに気づいた今、感謝するということがどれほど大切であるかを強く感じた。それからスタディーツアーで生まれた新たな疑問・・・発展と貧富の差の拡大。生きるとはどういうことか？これらの疑問に対する答えはまだ出ていないし、簡単に出すことはできない。だから私はバングラデシュで見たことや感じたこと、考えたことを一生忘れずにこれからも精一杯生きていきたい。

## 私を変えた“バングラデシュ”

土屋 理子

私は、スタディーツアーに参加する前、大きな間違っただ概念を抱いていた。それは、貧困の激しい国だから「何かしてあげられる」とか、「何かができる」と自信過剰に考えていたのである。しかし実際は、バングラデシュについて「分かったふり」をしていただけなのだ、と気づいた。

そして、現実を知らなかった向こうでの一週間は、全てが学ぶ場であり、考える場となった。

移動中、車内から見る光景は、テレビや写真、インターネットで見るよりも、自分の目で見るのが、こんなにも辛く、何倍もの強さで心を打つのかということを知った。

BDP スタッフとのディスカッションでは、「なぜ子供たちが学べないのか」、「なぜドロップアウトしてしまうのか」という教育の問題に、社会問題が大きく関わっていることやその解決に携わってきた経緯、これからの取り組みなど多くのことを学んだ。そして、NGOのあり方にも真剣に考えた。

学校訪問では、訪れる度に生徒の隣に座らせてもらい、勉強する強い意志や、一生懸命さを感じた。また、2校目を訪れたとき、男の子の小さな手からハイビスカスの花束を渡されたことがあった。その時、笑顔と共に、「ドンノバット（ありがとう）」と、私の口から自然と出たのを覚えている。それまでは、外国語として形式的に話していたのが、このとき初めて日本語と同じように心から言えた。もらった花束だけではなく、摘んだ思いに嬉しさを感じたのだ。

今回、バングラデシュに行き、私の価値観や全てに対する思いが変わり、大げさかもしれないが、成田空港に着いたとき、新しい人生が始まる気がした。将来のこと、これからやるべきことを見つけることができ、その中に、アルバートさんが言っていた「伝えること」がある。もちろん、容易なことではないけれど、一生かけてやっていこうと思う。

最後に、一緒に過ごしたメンバーや、スタディーツアーに参加するきっかけを与え、支援してくれた学校に感謝したい。

## 「スタディーツアーに参加して」

老田望

バン格拉デシュから成田に到着し、家に帰ろうと電車に揺られている間、様々なことを思い出していた。色々な種類のカレーの味、子供たちの元気な声、水浴びをした時のこと、豊かな自然、すべてが新鮮ですべての経験が私に色々なことを考えさせる力を与えてくれたと物思いにふけていた。そして、毎日のディスカッションや礼拝などを通してこんなに自分自身とも向き合った時間は今まで過ごしたことはなかったなと充実した日々を振り返り、これからの日本の生活の過ごし方を考えていた。電車のゆれを感じ、バン格拉デシュでの車のアトラクションのようなゆれを思い出した。そして電車の窓から見る日本の風景は大きな建物が所狭しとならびきれいな道路のうえを車がスムーズに走っているのを見てバン格拉デシュの車からみた景色との違いを感じていた。そしてやはり日本とバンクラデシュの物質的、経済的な差を感じずにはいられなかった。水道をひねれば水やお湯はでるし電気はいたるところでついている。今まで当たり前のように過ごしていた生活はなんて恵まれていたのかと思った。

そんなことを色々考えているらようどその時「私はこんな日本で将来過ごしたくない！海外に住みたい！」という女子高生の会話が聞こえてきた。この声が聞こえてきた時、バンクラデシュの人が考える自国への思いと日本人の自国への思いの違いがはっきりと感じた。バンクラデシュ人は深い愛国心をもっている。それはBDPのスタッフを見ても寺子屋の子供たちを見ていて感じる事ができた。日本人は常々愛国心がないといわれている。愛国心と聞くとマイナスのイメージをも浮かべてしまう。確かに第二次世界大戦中の日本や近年のアメリカなどを考えると愛国心はマイナスイメージになるだろう。しかし、バンクラデシュ人の愛情はそのようなものではない。ただ純粋に自国を愛し、どのようにすればもっと人々が幸せになるのかを考えている。日本人は個人主義が広がり加えて資本主義であり、自分の幸せと自国の幸せよりも優先に考える。日本に対して無関心でありだからこの国をよくしようという意志がない、無気力である。それは電車の中の女子高生の会話を聞いてもわかるし近年の投票率を見てもそうである。

バンクラデシュは確かに日本よりも経済的には劣っている。しかし心は豊かであり、物質的な豊かさとは心の豊かさは比例しないのだなあと感じた。そんなことを感じながら帰路に着いた。もしこのスタディーツアーに参加しなければそんなことを考えながら電車にのることはなかっただろう。

スタディーツアーは本当に私にとって大きなものであった。しかし本当に大切なのはこれからである。このツアーで学んだこと感じたことを生かすも殺すも私自身の行動で決まる。私はこの貴重な経験を忘れないようにこれからを過ごしたいと思う。そして最後にバンクラデシュの人々、BDPスタッフ、一緒に行ったメンバー全員から色々なことを学びてもらえたことは本当に感謝である。ありがとうございました。

## スタディーツアーに参加して

エイセフ評議員 岩崎 静男

### 私とエイセフ

私がエイセフと初めて係りを持ったのは、1990年のことであった。それは当会が創設された年であり、旧来の友であった船戸さんから、バングラデシュに寺子屋を創って子どもたちへの教育活動を支援するので協力してほしいとの話から始まった。当時私はロータリークラブで社会奉仕活動を担当していたので、1990年、91年と2年度にわたってクラブから寄付支援をさせていただいたことを覚えている。しかしその後は疎遠になり、10年の時を経て今度は評議員として奉仕の要請をいただくこととなった。しかし3度目の総会を迎えようとしている今日まで、評議員とは名ばかりの、ただ会議の席に連なって皆さんの話を聞くだけが精一杯の参加であった。どこかで現場の活動に触れてみたいと言う思いが潜在していた。幸い時が満ちて昨年12月末に現役を引退したのでこの機会に思い切って参加をさせていただいた次第である。

### ボクシガンジ、プーパイルで

ボクシガンジの畦道を学校へ向かって歩いて行くと、いつの間にか子どもたちが群がって来る。教室では先生と子どもたちが声をふり絞って数を数える。アルファベットを読みあげていく。エネルギーがすごいパワーが漲っている。その様子は訪問したすべての学校に共通した風景であった。学ぶことへの飢え、乾き、そして満たされた喜びを肌で感じた一瞬一瞬であった。更に教室で授業を受けている人数以上の子どもたちが周りに群がっている。古屋会長がNPO法人設立趣旨書の中で「正確な数字は明らかではないが1400万人の児童が家計を助けるために働かなければならず、その初等教育が受けられない」と述べているその姿の一端が、ここにハッキリと見えている。

子どもたちは地球の未来の力、知識を学ぶことだけでなく、人との係わり合いや、善悪の判断、人間としての基本的な素養を身につけていくことが、そのスタートである初等教育に求められるのは必然である。今のときが大切であり、その積み重ねが必要であることを痛感させられた。

### むすび BDPマラカール氏の話から

「私はバングラデシュを愛している。私たちの民族、国を誇りに思っている。しかし今現在、国家的な問題は多くの課題を抱えている。私はその問題解決、開発のため、出来得る限りの努力を傾注している。すべての人間は平和であり、よい生活をする権利、自由という権利を持っている。同時にまた神を愛し、隣人を愛することを求められている。それを実現するために、すべての人間は、個人として果たすべき責任を持っている。私はその焦点を教育にあわせて行ってきた。これがBDPの始まりであり理念である。」

プーパイルの集会室で聞くその言葉は、東京で耳にする会話とは全く違った響きで心に入ってきた。

「必要を求める人が居るとき、その人に何かをしてあげることは非常に重要な大切なことである。私たちの人生は私自身のためでなく、必要としている人に用いられる事である。」いずれも、マラカールさんの言葉である。

エイセフという組織の中で、「必要を求める人のために私の果たすべき役割は何か」。純粋な気持ちで追求し自己実現していくことがこれからの私自身の課題である。

## 未来をつくる

井上儀子

1週間はあっという間かもしれないけれど、その1日、1日は内容が濃く、その一瞬、一瞬は何と価値あふれる時の連続であったろうと、思い起こします。事務局を入れて参加者9名という少人数でしたが、みんなよく考え、よく感じ、仲のよいチームでした。

最終日のディスカッションで、BDPのスタッフを交えて、この1週間の感想を述べる時、その感謝の言葉はBDPのスタッフの心に届きました。なぜなら、ただ楽しかった、嬉しかったという言葉だけではなく、またこんなことを知った、あんなことを聞いたという知識だけではなく、日本に帰ったら私はこうしたい、ああしたいと述べられたことです。具体的には、この感動をできる限り友だちに伝えたい、出会った子どもたちのことを忘れないでいたい、これからの勉強に生かしていきたい、電気、水道、ガスのない生活体験を通してこれからの日本での生活を考え直したい、・・・などなど。BDPスタッフのアルバートさんはこう応えられました。「みなさんが、知識だけではなく人々と心の交わりをしてくださったことが嬉しいです。今大切なことは、何を見たかということではなく、日本に帰った後、何をするかということです。」

私たちは、「今」を生きていて明日のことはわからないけれども、明日の未来をつくるのは「今」の生き方によるのではないのでしょうか。バングラデシュの現実を知って私たちはどう生きていったらいいのでしょうか。アルバートさんは、「一人一人が平和の大使となってほしい。みなさんの助けなくしてはBDPの活動はあり得ないので、これからもACEFを支援してほしい。」と訴えられました。

最初の日に訪れたコネカンダ村の青空学級では、まだ50～60%の子どもしか学校に通うことができないけれど、今建設中のBDPの校舎が完成すると村の子どもたちが全員通うことができるという話を聞きました。今まで教育を受ける機会のなかった子どもたちに、べんきょうの場を与え、子どもたちに未来を与えているのがBDPの仕事です。私たちがACEFを支えていくということは、BDPの仕事を支えていくことですが、それは子どもたちの未来をつくるお手伝いをするということです。この尊い働きに加わり、私たち自身の未来と、バングラデシュの子どもたちの未来をつくることができると願っています。

第28回ACEFスタディーツアー参加者(2005春)

	氏名	ふりがな	住所	備考
1	宮本 実香	ミヤモト ミカ	山梨県山梨市	山梨英和高校2年
2	川上 咲野	カガミ サキノ	群馬県前橋市	共愛学園高校2年
3	徳差 真実	トクサシ マミ	東京都小金井市	国際基督教大学語学科1年
4	奥野 あずさ	オノ アズサ	東京都調布市	国際基督教大学社会科学科 1年
5	土屋 理子	ツチャ サコ	千葉県船橋市	青山学院女子短大国文学科1年
6	老田 望	オイト ノミ	東京都練馬区	東京女子大学哲学科2年
7	岩崎 静男	イワサキ シズオ	神奈川県川崎市	ACEF評議員
8	船戸 良隆	フナト ヨシタカ	埼玉県所沢市	ACEF事務局長 牧師
9	井上 儀子	イノウエ ノリコ	埼玉県さいたま市	ACEF事務局











## Bangladesh に寺子屋を贈ろう

教育はすべての協力の基です。会員としてご協力ください。



**会員募集**

個人会員	年額 1口	5,000 円
団体会員	年額 1口	50,000 円
学生会員	年額 1口	2,000 円
一時寄付	随時	金額自由

郵便振替 00100-0-185540  
アジアキリスト教教育基金

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-26

TEL. & FAX. 03-3208-1925

E-mail: [acef@rg7.so-net.ne.jp](mailto:acef@rg7.so-net.ne.jp)

<http://www.bluerain.fm/acef>